

【西地区】学校再編の組合せ自己評価表[小学校]

議題資料の各学校再編の組合せに記載されている「シミュレーション結果」等を参考に評価をお願いします。

パターン	小学校				進学先	適正規模 (R19)	分散進学	通学距離 (最長)	教室数の 確保	小中連携	他地区との 協議	評価		
■中学校区内を基本とした統合パターン														
A	再編校A	六小 (全員)	+	七小	+	十小 (三中学区)	三中	○	解消	7.1km	△	可	必要	
	再編校B	八小	+	十小 (多中学区)			多中	○	解消	5.1km	○	可	不要	
■他地区への学区変更が必要な統合パターン														
B	再編校	六小 (三中学区)	+	七小	+	十小 (全員)	三中	○	解消	7.1km	△	可	必要	
	八小						多中	○	—	—	—	可	—	
	六小 (四中学区)	→ 南地区再編校					四中							
C	再編校A	六小 (三中学区)	+	七小	+	十小 (三中学区)	三中	○	解消	7.1km	△	可	必要	
	再編校B	八小	+	十小 (多中学区)			多中	○	解消	5.1km	○	可	不要	
	六小 (四中学区)	→ 南地区再編校					四中							
■適正規模未満の学校同士の統合パターン														
D	再編校A	六小 (全員)	+			七小	三中	×	解消	7.1km	○	可	必要	
	十小 (全員)							○	解消	—	—	可	—	
	八小							多中	○	—	—	—	可	
E	再編校	六小 (全員)	+	七小	+	十小 (全員)	三中	○	解消	7.1km	△	可	必要	
	八小						多中	○	—	—	—	可	—	

※教室数の確保の欄については、シミュレーション結果の校地の候補に○があれば「○」、○はないが△があれば「△」、×しかなければ「×」としています。

【西地区】学校再編の組合せ自己評価表[中学校]

議題資料の各学校再編の組合せに記載されている「シミュレーション結果」等を参考に評価をお願いします。

パターン	小学校				進学先	中学校	適正規模 (R19)	通学距離 (最長)	教室数の 確保	小中連携	他地区との 協議	評価
■西地区内で統合するパターン												
A´	再編校A	六小 (全員) + 七小 + 十小 (三中学区)			三中	三中 + 多中	○	7.1km	△	可	必要	
	再編校B	八小 + 十小 (多中学区)			多中							
B´	再編校	六小 (三中学区) + 七小 + 十小 (全員)			三中	三中 + 多中	○	7.1km	○	可	必要	
	八小				多中							
C´	再編校A	六小 (三中学区) + 七小 + 十小 (三中学区)			三中	三中 + 多中	○	7.1km	○	可	必要	
	再編校B	八小 + 十小 (多中学区)			多中							
E´	再編校	六小 (全員) + 七小 + 十小 (全員)			三中	三中 + 多中	○	7.1km	△	可	必要	
	八小				多中							

※教室数の確保の欄については、シミュレーション結果の校地の候補に○があれば「○」、○はないが△があれば「△」、×しかなければ「×」としています。

パターン	小学校			進学先	中学校	適正規模 (R19)	通学距離 (最長)	教室数の 確保	小中連携	他地区との 協議	評価			
■地域性を考慮し、他地区と統合するパターン														
A''	再編校A	六小 (全員)	+	七小	+	十小 (三中学区)	三中	三中 + 四中	○	8.6km	△	可	必要	
	現行の 四中構成 小学校				四中									
	再編校B	八小	+	十小 (多中学区)	多中	多中	×	—	—	可	—			
B''	再編校	六小 (三中学区)	+	七小	+	十小 (全員)	三中	三中 + 四中	○	8.6km	△	可	必要	
	現行の 四中構成 小学校				四中									
	八小				多中	多中	×	—	—	可	—			
C''	再編校A	六小 (三中学区)	+	七小	+	十小 (三中学区)	三中	三中 + 四中	○	8.6km	△	可	必要	
	現行の 四中構成 小学校				四中									
	再編校B	八小	+	十小 (多中学区)	多中	多中	×	—	—	可	—			
E''	再編校	六小 (全員)	+	七小	+	十小 (全員)	三中	三中 + 四中	○	8.6km	△	可	必要	
	現行の 四中構成 小学校				四中									
	八小				多中	多中	×	—	—	可	—			

※教室数の確保の欄については、シミュレーション結果の校地の候補に○があれば「○」、○はないが△があれば「△」、×しなければ「×」としています。

学校再編の組合せ自己評価表

【見方と評価の方法について】

1. 自己評価表の作成について

当日は学校再編の組合せパターンについて協議しますので、同封の資料をご確認いただき、自己評価表の作成をお願いします。

2. 評価方法

(1) 評価表の見方

評価表には、再編パターンごとの客観的なシミュレーションの結果を掲載しています。なお、その項目及び内容は、議題資料内「学校再編の組合せ」の各再編パターンのページに掲載している「シミュレーション結果」と同一です。

(評価の例)

議題資料：「学校再編の組合せ（シミュレーション結果）」

	適正規模※5			分散 進学	通学距離 (最長)	教室数の確保※6				小中 連携	他地区 との協議
	R12	R15	R19								
再編校 A	○	○	○	—	3.6km	●小	○	▲小	×	可	不要
再編校 B	○	×	×	—	5.8km	▲小	○	◆小	△	可	不要

再編校 A は適正規模を維持する見込みで教室数の確保も可能。
一方で、再編校 B は R15 には適正規模が維持できなくなる見通しなので更なる再編が必要になる。

評価表

パターン	小学校	進学先	適正規模 (R19)	分散進学	通学距離 (最長)	教室数の 確保	小中連携	他地区との 協議	評価
A	再編校 A	●小 + ▲小	■中	○	—	3.6km	○	可	不要
	再編校 B	▲小 + ◆小	★中	×	—	5.8km	○	可	不要

評価項目	項目の説明及び評価のポイント
適正規模 (R19)	令和19年度における再編校の適正規模の見通し 【ポイント】適正規模を維持できるか。
分散進学	再編後の分散進学の状況 【ポイント】分散進学の解消が図られるか。
通学距離 (最長)	再編後の学校区における最長通学距離 (道のり) 【ポイント】代替交通手段の検討が必要となるか。
教室数の確保	再編後の教室数確保の見通し 【ポイント】教室数が確保できるか。
小中連携	再編後の小中連携の可否 【ポイント】再編により小中連携が可能となるか。
他地区との協議	再編に伴う他地区間協議の要否 【ポイント】再編に伴い他地区との協議が必要になるか。
評価	評価欄には、再編パターンについてあなたの評価を記入してください。

(2) 評価の方法

各再編パターンの評価にあたっては、評価項目やシミュレーション結果をご確認いただきながら、良い点や期待される効果、課題や懸念事項などをご記入ください。

※自己評価表は第3回検討委員会にご持参ください(提出は不要です)

< 館林市立小学校の沿革 >

渡瀬村	多々良村	三野谷村	六郷村	赤羽村	大島村	郷谷村	館 林 町			
高等渡瀬尋常小学校	高等多々良尋常小学校	高等三野谷尋常小学校	高等六郷尋常小学校	高等赤羽尋常小学校	高等大島尋常小学校	高等郷谷尋常小学校		館林町立高等尋常小学校		昭和元年（
高等渡瀬尋常小学校	高等多々良尋常小学校	高等三野谷尋常小学校	高等六郷尋常小学校	高等赤羽尋常小学校	高等大島尋常小学校	高等郷谷尋常小学校		館林町立高等尋常小学校		昭和四年四月一日（
尋常高等渡瀬小学校	尋常高等多々良小学校	尋常高等三野谷小学校	尋常高等六郷小学校	尋常高等赤羽小学校	尋常高等大島小学校	尋常高等郷谷小学校		館林町立尋常高等小学校		昭和一六年三月三十一日
国民渡瀬小学校	国民多々良小学校	国民三野谷小学校	国民六郷小学校	国民赤羽小学校	国民大島小学校	国民郷谷小学校		館林町立北国民小学校		昭和一六年四月一日（
渡瀬村立渡瀬小学校	多々良村立多々良小学校	三野谷村立三野谷小学校	六郷村立六郷小学校	赤羽村立赤羽小学校	大島村立大島小学校	郷谷村立郷谷小学校		館林町立館林北小学校		昭和二二年四月一日（
渡瀬村立渡瀬小学校	多々良村立多々良小学校	三野谷村立三野谷小学校	六郷村立六郷小学校	赤羽村立赤羽小学校	大島村立大島小学校	郷谷村立郷谷小学校		館林町立館林北小学校		昭和二七年四月一日（
館林市立渡瀬小学校	館林市立多々良小学校	館林市立三野谷小学校	館林市立六郷小学校	館林市立赤羽小学校	館林市立大島小学校	館林市立郷谷小学校	館林市立館林東小学校	館林市立館林南小学校	館林市立館林北小学校	昭和二九年四月一日（
館林市立第九小学校	館林市立第八小学校	館林市立第七小学校	館林市立第六小学校	館林市立第五小学校	館林市立第四小学校	館林市立第三小学校（統合）	館林市立第二小学校	館林市立第一小学校		昭和四一年四月一日（
館林市立第九小学校	館林市立第十小学校	館林市立第八小学校	館林市立第七小学校	館林市立第六小学校	館林市立第五小学校	館林市立第四小学校	館林市立第三小学校	館林市立第二小学校	館林市立第一小学校	昭和五三年四月一日（
館林市立第九小学校	館林市立第十小学校	館林市立第八小学校	館林市立第七小学校	館林市立第六小学校	館林市立第五小学校	館林市立第四小学校	館林市立第三小学校	館林市立第二小学校	館林市立第一小学校	平成三年四月一日（

< 出典 > 館林市教育史 下巻（平成10年3月30日 発行）

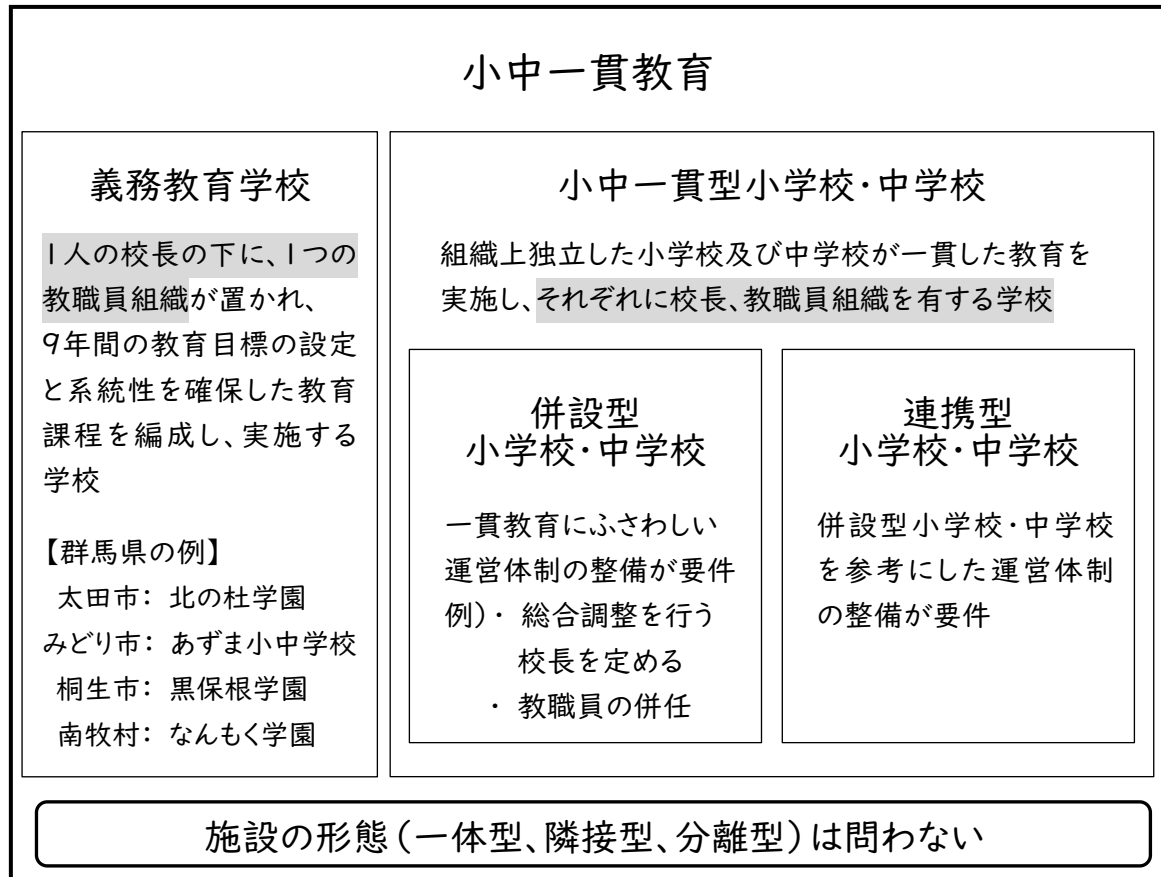
<館林市立中学校の歴史>

渡瀬村	多々良村	三野谷村	六郷村	赤羽村	大島村	郷谷村	館林町	昭和二年 四月一日
渡瀬村立 中学校	多々良村立 中学校	三野谷村立 中学校	六郷村立 中学校	赤羽村立 中学校	大島村立 中学校	郷谷村立 中学校	館林町立 中学校	昭和二年 四月一日
渡瀬中学校	館林市立 多々良中学校	館林市立 三野谷中学校	館林市立 六郷中学校	館林市立 赤羽中学校	館林市立 大島中学校	館林市立 郷谷中学校	館林市立 中学校	昭和二年 四月一日
渡瀬中学校	館林市立 多々良中学校	館林市立 三野谷中学校	館林市立 六郷中学校	館林市立 赤羽中学校		館林市立 第二中学校 (統合)	館林市立 第一中学校 (昭和 34.4.1)	昭和三年 九月一日
渡瀬中学校	館林市立 多々良中学校	館林市立 三野谷中学校	館林市立 六郷中学校	館林市立 赤羽中学校		館林市立 第二中学校	館林市立 第一中学校	昭和三年 十一月一日
渡瀬中学校	館林市立 多々良中学校	館林市立 三野谷中学校	館林市立 第三中学校 (統合)	館林市立 赤羽中学校		館林市立 第二中学校	館林市立 第一中学校	昭和四年 四月一日
	館林市立 多々良中学校	館林市立 第三中学校		館林市立 赤羽中学校		館林市立 第二中学校	館林市立 第一中学校 (統合)	昭和五年 四月一日
	館林市立 多々良中学校	館林市立 第三中学校		館林市立 第四中学校 (統合)		館林市立 第二中学校	館林市立 第一中学校	昭和六〇年 四月一日
	館林市立 多々良中学校	館林市立 第三中学校		館林市立 第四中学校		館林市立 第二中学校	館林市立 第一中学校	平成三年 四月一日

<出典> 館林市教育史 下巻（平成10年3月30日 発行）

■小中一貫教育

小中連携教育のうち、小・中学校段階の教職員が目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育



小中一貫教育のメリット・デメリット

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> ○小中学校間の連携が強化され、教育の質が向上する ○異学年交流を通じて、思いやりや規範意識が育まれる ○地域社会との連携を深めることで、社会性が育まれる ○事務手続きや教育課程の調整が容易になる ○過疎化が進む地域では、学校の魅力を高め、移住を促す効果も期待できるなど 	<ul style="list-style-type: none"> ●小中学校の間の切り替えがなくなること、生徒の新たな気持ちの切り替えや進学の充実感がなくなる可能性がある ●小学生が中学生を恐れてしまうのではないかという懸念がある ●小学校と中学校の組織文化や習慣の違いが大きく、その調整に時間がかかるなど